



山口県内の博物館紹介 vol. 11

鑄銭司郷土館

鑄銭司郷土館は、山口市鑄銭司、国道2号線沿いの長沢池対岸に位置します。周囲には大村神社、大村益次郎の墓、周防鑄銭司跡があります。入館者は年間約3000人を数え、館内入って右側の第一展示室では幕末・維新に活躍した大村益次郎の生涯を遺品や切り絵を用いて紹介しています。左側の第二展示室では、周防鑄銭司跡出土の遺物を中心に日本の貨幣の変遷が紹介されています。どちらの展示室も音声での説明があり、分かりやすく充実した内容となっています。今回は嘱託の伊藤米秋さんに館の展示内容や特色についてお話を伺いました。

(質問) 沢山の益次郎の遺品が展示されていますね。

伊藤「これらの遺品の中でも、益次郎直筆の書状の多くは、村田家(益二郎の養子先)ゆかりの寺のふすまの下張から発見されました。益次郎直筆の書状は非常に珍しいものなんです」

(質問) 展示パネルや銅像も立派ですね。

伊藤「館内中央の大村益次郎の像は、靖国神社に設置されている像の1/2サイズとなっています。この像は西洋風の銅像としては日本で最初のもので、日本の美術彫刻の代表作です。益次郎の生涯を紹介している切り絵は、制作者である辰巳一平先生の代表作となっています」

(質問) 第二展示室の見所を教えてください。

伊藤「ここでは、古代から現代までのお金の変遷を紹介しています。展示品は、大判以外は全て本物なんです。古代の鑄銭司は全国に8カ所ありましたが、この周防鑄銭司跡は1番長く操業されたものであり、貴重な遺跡なのです」

この他、中央ロビーでは益次郎や大内文化、中原中也に関した映像などをデジタルハイビジョンで見ることができます。全国で大村益次郎の資料館はここだけです! 数多くの貴重な資料を見ることができる鑄銭司郷土館に是非足をお運び下さい。(乃美友香)



鑄銭司郷土館外観



第一展示室 大村益次郎の銅像

お問い合わせ先

鑄銭司郷土館

〒747-1221

山口市鑄銭司 1422

Tel 083-986-2368

Fax 083-986-2880



2007 年 秋 埋蔵文化財資料館の活動

10 月 10/ 6 (土) 第7回公開授業『古代人の知恵に挑戦! ~古代のお米をつくってみよう2~』第4回授業(脱穀・古代食調理など)開催(受講者15名)。
10/25 (木)・26 (金) 教育学部附属山口中学校(白石遺跡)にて立会調査を実施。
10/29 (月) 第7回大学情報機構埋蔵文化財特別展『あしもとの遺跡シリーズ4 弥生時代の吉田遺跡』オープン。
(於: 山口大学総合図書館1階 開催期間: 平成20年3月28日まで)

11 月 11/ 3 (土) 第24回企画展『やまぐち古代の七不思議』オープン。
(※開催期間: 平成20年2月29日まで)
11/10 (土) 大学情報機構2007in 医学 Fes. (小串キャンパス医学祭参加企画)にて『山口大学学宝展 in 小串』を開催。
11/24 (土) 大学情報機構2007in 常盤 Fes. (常盤キャンパス常盤祭参加企画)にて『宇部遺跡への誘い vol.1 波雁ガ浜遺跡』を開催

12 月 12/28 (金) 仕事納め



第7回公開授業「古代食の再現」



第24回企画展の展示風景

編集・発行

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第11号
『てらこや埋文』2008 冬

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuam-w/Shiryokan.home/

発行年月日 2008. 1. 15.

季刊 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第11号

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2008年

冬



今年度も古代米づくりに挑戦! 一第7回公開授業を開催しました一

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、平成13年度から公開授業を開催しており、今年度で7回目となります。

今年度の公開授業は昨年に引き続き日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるという内容です。山口大学教育学部と共催で、山口市大内御堀管内にある山口大学教育学部実習農場で延べ4回に渡って行い、小学生2人、保護者・一般・教育学部学生など20名、総勢22名の皆様に参加していただきました。

5月26日(土) 一田植え一

教育学部技術専門職員の徳永さんに代かきをしていただいた水田に全員で恐る恐る入り、稲の無事な成長を祈りつつ田植えをしました。

7月21日(土) 一草取り一

稲は6月12日には長さ約33cm、7月21日には約80cmに成長しました。しかし、日照時間と水田の栄養分の不足により、葉がやや黄色く元気がないため、少量の肥料をまきました。また、昨年同様、水田にはほとんど雑草が生えませんでした。畦には雑草が生い茂っており、参加者全員で協力して雑草をとりました。

9月22日(土) 一収穫一

今年は大きな台風もなかったため、秋晴れの晴天の中、無事に収穫を迎えることができました。最終的に稲は長さ約90~110cmにまで成長しました。収穫にはアワビの貝殻や模造した木包丁などを使って穂摘みをし、残りは鎌で根刈りをしてはぜ架けをしました。

10月6日(土) 一脱穀・粳すり、赤米を食べる一

足踏み脱穀機による脱穀や唐箕による選別を体験した後、箸こぎ、臼と杵による粳すり、てみとザルによる選別を体験しました。大変手間のかかる作業でしたが、手分けして根気強く行いました。なお、収穫量は昨年が玄米で約10kgであったのに対し、今年は約8kgでやや少ない結果となりました。

お昼には土器や羽釜で赤米入りご飯を炊いたほか、ニジマスの塩焼きや豚汁風の芋煮をつくりました。赤米は現在のお米よりもやや硬いものの、甘い味がしました。ニジマスの塩焼きや豚汁風の芋煮もとても美味しく好評でした!

公開授業を終えて

今回の公開授業について、参加者からは「お米ともみ殻を分けるのが大変でしたが、がんばって赤米になったときはうれしかった」「実際に体験してお米を食べるまでというのは大変なんだと思いました」「食べ物に対する見方が変わりました」などの声が寄せられました。参加者の皆さんには、米づくりの歴史や大変さを学び、稲作が天候や土壌の栄養分に大きく左右されることを体験していただくことができました。今年度も盛況のうちに公開授業を無事終了することができ、館員一同心より御礼申し上げます。

詳細は未定ですが、来年度も埋蔵文化財資料館では公開授業を開催する予定です。どうぞご期待ください!
(田畑直彦)



田植え



臼と杵を使った粳すり



穂摘み



参加者の皆さん



日本海に浮かぶ孤島の遺跡

ジーコンボ古墳群は、島の南東側（本州側）の礫浜（横浦海岸）に形成された、約 200 基からなる一大墳墓遺跡です。遺跡では昭和 35 年(1960)から昭和 37 年(1962)にかけて山口県教育委員会と萩市教育委員会により発掘調査がおこなわれました。この調査により、この墳墓群が7世紀後半から10世紀初頭までの長期間営み続けられたことが判明しました。また多量の須恵器をはじめとして武具や装身具、銭貨、金属製の食器など、葬られた人々の身分の高さをうかがわせる遺物が数多く出土したため、現在では国の史跡に指定されています。

151号墳は古墳群の西方に位置します。石室の上部は破壊されていましたが、下部の側石などは残っていて残っていました。床面を調査したところ、2ヶ所からまとまって人骨や歯が出土したことにより、2体の成人が葬られたものと推定されています。この他、151号墳からは大刀や刀子、鉄鏃などの多量の武器類とともに、大刀の刀装具(鞘や鐔など、刀を携帯し使用しやすくするための付属部品)も出土しています。また、耳環2個と律令官人(古代の役人)の腰帶飾りである巡方(じゅんぼう)と丸軛(まるとも)の裏金具などの装身具類も出土しています。

実は見島は 20 世紀初頭に勃発した日露戦争以降、日本海域の国防の拠点とされており、現在でも航空自衛隊が駐屯しています。古代においても同様の役割を果たす集団が存在していた可能性があります…

ジーコンボ古墳群は、未だ謎の多い遺跡なのです。みなさんはどのようにお考えですか？（横山成己）



(乃美友香)



国指定史跡 すおう こく が
周防国衙跡

朱雀大路跡

当史跡公園は防府市国衙3丁目にあり、防府駅(JR山陽本線)から徒歩で東に15分程で到着します。車の場合には、国道262号線に標識が出ており簡単に見つけることができます。平安時代には、清少納言が父・清原諸輔の赴任に伴ってこの地で幼少期を過ごしたと言われています。清少納言が見上げた空を想い浮かべ詠うもよし、父諸輔に想いを馳せて政を考えるもよし、遺跡を通して歴史の一コマに身を置いてみてはいかがでしょうか。

(藤野好博)